

タイトル	講演1「ウクライナというところ - 地理と歴史の復習 - 」
著者	寺田, 吉孝; TERADA, Yoshitaka
引用	北海学園大学人文論集(75): 4-11
発行日	2023-08-31

講演 1 「ウクライナというところ — 地理と歴史の復習 —」

寺 田 吉 孝

○寺田氏 人文学部の寺田と申します。よろしくお願いたします。

2022年2月24日、突如としてウクライナが有名になってしまいました。それより前は、ウクライナがどこにあるのかも、学生たちの多くは、知らなかったようです。南アメリカにあるとか、アフリカにあるとか言う学生もいました。ウガンダとかウルグアイと勘違いしていたような感じがします。しかし、昨年以來は、なかなか、有名になりました。それでも、ウクライナがどこにあるのか、あるいは、どんな国なのか、どんな人たちが住んでいるのか、あるいは、どんな歴史なのか、学生たちはよく知りません。

大体、日本では主に日本人が住んでいて主に日本語が話されているので、ウクライナでもウクライナ人が主に住んでいてウクライナ語が話されていると思っている学生がほとんどなのです。そのため、授業中にウクライナの地理とか歴史に触れながら、ウクライナの国の成り立ちについて授業で触れることがあります。

そこで、今回、必要ないかもしれませんが、「言語と文化から見るウクライナ」というテーマに入る前に、簡単にウクライナの地理と歴史を復習していきたいと思います。

まず、①のウクライナの概略地図と主要地名一覧をご覧いただきたいと思います。

[講演では、パワーポイントを使い、主要都市の場所を示したが、文書では、再現不可能なので、上記の地図で確認いただきたい。太字の大きめの文字で書かれた地名が大都市である。参考として、地図に書かれている地名の一覧を掲載する。ウクライナは、ウクライナ語とロシア語のバイリンガル

地域なので、ウクライナ語での地名とロシア語での地名を併記している。一部、英語での地名と日本語での地名を書き加えている。]



※ウクライナ語が優勢な地域はウクライナ語で、ロシア語が優勢な地域はロシア語で書かれている。

ロシア語	ウクライナ語	その他
Киев キーイェフ	Київ クィーイウ	キエフ (日本語), Kyiv キーヴ (英語)
Харьков ハリコフ	Харків ハルキウ	Kharkiv カーキヴ (英語)
Одесса オデッサ	Одеса オデーサ	
Львов リヴォフ	Львів リヴィウ	
Запорожье ザポロージェ	Запоріжжя ザポリリッジャ	
Днепк ドネツク	Донець ドネチク	
Луганск ルガンスク	Луганськ ルハンシク	
Симферополь シンフェローポリ	Симферополь シンフェローポリ	
Севастополь セヴァストーポリ	Севастополь セヴァストーポリ	
Ялта ヤルタ	Ялта ヤルタ	
Полтава ポルタヴァ	Полтава ポルタヴァ	
Кривой Рог クリヴォイ・ローグ	Кривий риг クレイヴィイ・リーフ	
Кременчук クレメンチューク	Кременчук クレメンチューク	
Луцк ルーツク	Луцьк ルーチク	

ロシア語	ウクライナ語	その他
Ужгород ウジュゴロド	Ужгород ウジュホロド	
Черновцы チェルノフツイ	Чернівці チェルニウツイ	
Тернополь テルノーポリ	Тернопіль テルノーピリ	
Винница ヴィーンニツァ	Винниця ヴィーンニツャ	
Ровно ロヴノ	Рівне リヴネ	
Житомир ジトーミル	Житомир ジトームイル	
Днепропетровск ドニプロペトロフスク	Дніпропетровськ ドニプロペトロウシク	
Николаев ニコラーエフ	Миколаїв ムィコラーイウ	
Херсон ヘルソン	Херсон ヘルソン	
Черкасы チェルカーッスイ	Черкаси チェルカースイ	
Чернигов チェルニーゴフ	Чернігів チェルニーヒウ	
Крым クレイム	Крим クレイム	クリミア (日本語), Crimea クライミーア (英語)
Днепр ドニエプル	Дніпро ドニプロー	Dnieper ニーバ(英語)

キエフ・ルーシという言葉を目にすることがあると思います。プーチン大統領がよく言ってますね。彼は、ロシアとウクライナは一体であると言っていますが、その根拠になっているのがルーシです。ルーシというのは国名です。キエフが中心だったから、キエフ・ルーシと言います。

②のキエフ・ルーシの地図をご覧ください。

次に、キエフ・ルーシの地図に、現在のウクライナの国境線（赤色）を書き加えてみます。③の地図をご覧ください。

ここで、わかるのは、現在、ロシアが侵攻しているハリコフ、ルガンスク、ドネツクはルーシの中に入っていないで、外にあります。クリミア半島もルーシに入っていません。キエフよりも南の方は、遊牧民族の通り道になっていたのです、なかなか人が定住できなかったところだったのです。

次に、④のウクライナ年表（概略図）をご覧ください。

表の一番上に、青地に黄色の文字でウクライナと書かれています。その下には、ウクライナの各地域が書かれています。ウクライナは複雑な歴史をもち、多様な民族が暮らしています。その各地域の欄の下に赤字で主要都市が書かれています。

②キエフ・ルーシ (12世紀中頃～13世紀初め)



③キエフ・ルーシ (12世紀中頃～13世紀初め) と現在のウクライナ



※赤い線で囲まれた部分が現在のウクライナの地である。

④ウクライナの歴史 (概略図)

年記	主要な出来事 (事件がウクライナに与えた影響) (脚注参照)	プロウチナ ツェルネウチナ ツィ ウクライナ	キエフ・ルーシ	東スラヴ諸民族	ウクライナ	東スラヴ諸民族	ベラルーシ	ロシア
年記	主要な出来事 (事件がウクライナに与えた影響) (脚注参照)	キエフ・ルーシ	東スラヴ諸民族	ウクライナ	東スラヴ諸民族	ベラルーシ	ロシア	
8	東スラヴ諸民族の形成	キエフ・ルーシ	東スラヴ諸民族	ウクライナ	東スラヴ諸民族	ベラルーシ	ロシア	
9	東正教の伝播 (キエフ・ルーシ) のスラヴ化の年表開始 (888年)	キエフ・ルーシ	東スラヴ諸民族	ウクライナ	東スラヴ諸民族	ベラルーシ	ロシア	
10	キエフ・ルーシの崩壊 (988年)	キエフ・ルーシ	東スラヴ諸民族	ウクライナ	東スラヴ諸民族	ベラルーシ	ロシア	
11	キリスト教の東正教に完全な移行 (1054年)	キエフ・ルーシ	東スラヴ諸民族	ウクライナ	東スラヴ諸民族	ベラルーシ	ロシア	
12	ハンガリー人の侵入 (1024年) ハンガリー人の侵入 (1024年) ハンガリー人の侵入 (1024年)	ハンガリー	東スラヴ諸民族	ウクライナ	東スラヴ諸民族	ベラルーシ	ロシア	
13	モンゴル・タタールの侵入 (1240年) キエフ・ルーシの滅亡 (1240年)	モンゴル	東スラヴ諸民族	ウクライナ	東スラヴ諸民族	ベラルーシ	ロシア	
14	クリミアの征服 (1528年) キエフ・ルーシの再興 (1528年)	クリミア	東スラヴ諸民族	ウクライナ	東スラヴ諸民族	ベラルーシ	ロシア	
15	オスマン帝国の侵入 (1699年) ハンガリーの併合 (1699年)	オスマン	東スラヴ諸民族	ウクライナ	東スラヴ諸民族	ベラルーシ	ロシア	
16	ポーランド立憲君主制の成立 (1791年) ユニオン成立 (1791年)	ポーランド	東スラヴ諸民族	ウクライナ	東スラヴ諸民族	ベラルーシ	ロシア	
17	ポーランド立憲君主制の廃止 (1795年) ナポレオンの侵入 (1795年)	ポーランド	東スラヴ諸民族	ウクライナ	東スラヴ諸民族	ベラルーシ	ロシア	
18	ロシアの侵入 (1769年) ナポレオンの侵入 (1795年) ナポレオンの侵入 (1795年) ナポレオンの侵入 (1795年)	ロシア	東スラヴ諸民族	ウクライナ	東スラヴ諸民族	ベラルーシ	ロシア	
19	ロシア帝国の成立 (1801年) ナポレオンの侵入 (1806年) ナポレオンの侵入 (1806年) ナポレオンの侵入 (1806年)	ロシア	東スラヴ諸民族	ウクライナ	東スラヴ諸民族	ベラルーシ	ロシア	
20	ロシア帝国の崩壊 (1917年) ナポレオンの侵入 (1917年) ナポレオンの侵入 (1917年) ナポレオンの侵入 (1917年)	ロシア	東スラヴ諸民族	ウクライナ	東スラヴ諸民族	ベラルーシ	ロシア	
21	ソ連の崩壊 (1991年) ナポレオンの侵入 (1991年) ナポレオンの侵入 (1991年) ナポレオンの侵入 (1991年)	ソ連	東スラヴ諸民族	ウクライナ	東スラヴ諸民族	ベラルーシ	ロシア	

表の左には、主な出来事が年代順に書かれています。

9世紀を見ていただきたいのですが、このときにキエフ・ルーシが成立しました。キエフ・ルーシというのは東スラヴの諸部族を統一した国です。次に、12世紀を見ていきたいのですが、キエフ・ルーシが分裂傾向になってしまっています。その後、キエフ・ルーシの2か所が有力な地域になっていきます。その一つがウラヂーミルです。もう一つがハルィチ・ヴォルィニ（ハリチナーとヴォルィニ）というところです。次第にキエフが没落していきます。そうこうしているうちに、モンゴル・タタールがやってきます。モンゴル人とタタール人の連合軍です。キエフ・ルーシがその支配下に置かれます。

14世紀の項目をご覧ください。14世紀、ルーシの西方は、弱体化していくモンゴル・タタールの目が届かない地域になり、その間にポーランドとリトアニアの支配下に置かれてしまいます。水色の部分です。この地域は、その後、ポーランドがリトアニアをのみ込んでしまいます。そして、18世紀までポーランド支配が続きます。

一方、ロシアは、モンゴル・タタールの侵攻前に栄えていたウラヂーミル（ウラヂーミル大公国）の一つの砦だったモスクワが力をつけていきます。そして、モンゴル・タタールを追い出します。モスクワ（モスクワ大公国）は、その後、ロシアを形成していきます。

ポーランド支配下の地域の話に戻ります。ポーランドに支配されていたのは現在の西ウクライナです。キエフの辺りまでです。18世紀末に、そのポーランドがプロイセン、オーストリアとロシアによって分割されます。高校世界史で学ぶポーランド分割です。プロイセンは、ポーランド民族が住むポーランドの中心部を支配し、オーストリアとロシアがポーランド支配下のキエフ・ルーシの故地を支配します。大部分はロシア帝国に領有されますが、西の端だけがオーストリアに支配されます。この西の端がハルィチナーという地域です。この地域は、第1次世界大戦後に、敗戦国オーストリアからポーランドに戻ります。その後、独ソ不可侵条約により、一時期、2年足らずの間、ソ連の支配下に入ります。しかし、独ソ戦開始後

すぐにナチスドイツに領有されました。そして、ハリチナーは、ナチスドイツの力を借りて独立を試みます。ナチスドイツのソ連侵攻に協力しましたが、独立は上手く果たせませんでした。この地域がソ連に併合されたのは、第2次大戦後のことです。ハリチナーは、最後に回収されたキエフ・ルーシの土地だったのです。

ハリチナーというのは、馴染みのない地名だと思います。英語とかロシア語ではガリツィアと呼ばれています。この地域は、ウクライナの中でもかなり特殊な地域です。特に、宗教的に。ポーランドと言えば、熱心なカトリック国ですね。ハリチナーは、14世紀の段階でポーランドに支配されたところですよ。リトアニアではなしに。最初からずっとポーランドの支配下と言ってもいいところですよ。ですから、カトリックの影響力が大きいのですよ、ここは。

ロシアに話を戻します。ロシアは第1次世界大戦中に革命が起こりました。ロシア革命です。しばらくして、ソ連邦が成立しました。その時、ロシア帝国の領土は、ほぼそのままソ連邦に受け継がれていきます。ソ連邦には、15の共和国がありました。実質は、国というよりも行政区画のようなものです。この15共和国の中に、ソ連ウクライナ共和国というのがあって、それが、ソ連邦崩壊のとき、そっくりそのままウクライナという国家になったのです。民族分布を考慮に入れず、ウクライナという国家が生まれた。こんな風に、棚ぼた式にウクライナという国家ができました。

先ほども申し上げましたが、ソ連ウクライナ共和国が成立する前に、ハリチナー地域だけで独立しようとしていたのです。そのときにナチスドイツの協力を求めているのですよ。それで、ナチスドイツと一緒にあって、東ウクライナやベラルーシを侵略したという歴史があります。プーチンがクーデター後のウクライナ政権のことをネオナチという源がここにありません。

ここまでが地理と歴史の復習でした。特におさえておきたいのは、東ウクライナや南ウクライナは、キエフ・ルーシの域外であり、人が住まない「荒野」と呼ばれていた土地だったということです。そこをロシア帝国が

領土にし、ロシア人を入植させました。そのため、ロシア人が多く暮らすところとなったのです。ロシア語地域でもあります。現在、そこがロシアに攻撃されているのです。何か理解に苦しむところなのですが、またこのことも後で触れます。

○司会 ここまでのところで何か質問があれば承ります。いかがでしょうか。

よろしいですか。

○寺田氏 ハターエヴァ先生を御紹介いたします。ハターエヴァ先生は、ウクライナ中央部にあるクレメンチューク市の御出身です。キエフの南東250キロメートルに位置しています。ドニエプル川左岸、流れに向かって左岸ということなので、東岸と言っても良いと思います。ここはウクライナ語とロシア語のバイリンガル地域です。しかし、ロシア語のほうが優勢なところですよ。

ハターエヴァ先生は、北海道大学大学院で博士号を取得され、2022年夏まで北大の国際部国際連携課の特定専門職員として勤務されていました。秋以降、金沢大学の国際機構専門業務職員として、勤務されています。

今回は、「ウクライナの木造教会堂建築 ― 歴史的背景及び構成上の特質 ―」という題目でお話しいただきます。金沢からのリモートでのご発表です。

○司会 では、ハターエヴァ先生、よろしく申し上げます。